(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2016 年 10 月 13 日(13.10.2016)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2016/162985 A1

(51) 国際特許分類:
B26B 13/00 (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2015/061026

(22) 国際出願日: 2015 年 4 月 8 日(08.04.2015)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(71) 出願人: 株式会社ヒカリ(HIKARI CORPORATION) [JP/JP]; 〒1730034 東京都板橋区幸町２５－８ Tokyo (JP).

(72) 発明者: 高橋　一芳(TAKAHASHI Kazuyoshi); 〒1730034 東京都板橋区幸町２５－８　株式会社ヒカリ内 Tokyo (JP).

(74) 代理人: 前島　大吾, 外(MAEJIMA Daigo et al.); 〒1010025 東京都千代田区神田佐久間町一丁目１４番地第二東ビル５階 Tokyo (JP).

(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JP, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

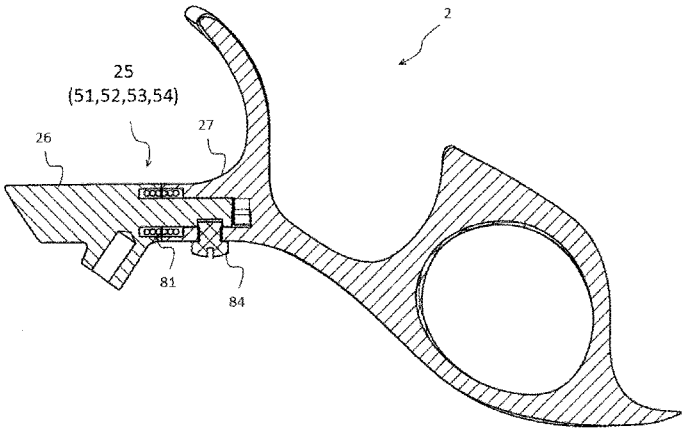
添付公開書類:

— 国際調査報告（条約第 21 条(3)）

WO 2016/162985 A1

(54) Title: SCISSORS FOR HAIRDRESSING

(54) 発明の名称 : 理美容用鋏



(57) Abstract: The purpose of the present invention is to reduce stress on the ring finger during use of a pair of scissors, and to reduce the burden for hairdressers. A moving blade (11) is continuous with a thumb ring (13) via a handle portion (12), and configures a scissor half (1), and a stationary blade (21) is continuous with a ring finger ring (23) via a handle portion (22), and configures a scissor half (2). The scissor half (1) and the scissor half (2) are pivotably coupled at a pivot (3). The scissor half (2) is formed by a scissor half blade side portion (26) and a scissor half ring side portion (27) being coupled by a coupling portion (25). The coupling portion (25) includes a pivot mechanism (51) and an elastic mechanism (52). The scissor half ring side portion (27) is pivotable about a coupling axis with respect to the scissor half blade side portion (26). The elastic mechanism (52) acts so as to turn back the pivotal movement (to oppose the pivotal movement).

(57) 要約:

[続葉有]

鋏使用時の薬指への負荷を軽減する。さらに、カット技術者への負担を軽減する。動刃（１１）は柄部（１２）を介して親指リング（１３）と連続し、鋏半体（１）を構成し、静刃（２１）は柄部（２２）を介し薬指リング（２３）と連続し、鋏半体（２）を構成する。鋏半体（１）と鋏半体（２）とが軸支部（３）にて回動自在に連結されている。鋏半体（２）は、連結部（２５）を介して鋏半体刃側部（２６）と鋏半体リング側部（２７）とが連結されて形成される。連結部（２５）は、回動機構（５１）と弾性機構（５２）とを備える。鋏半体リング側部（２７）は鋏半体刃側部（２６）に対し連結軸を中心に回動可能である。弾性機構（５２）は回動を戻す（回動に対抗する）ように作用する。

明　細　書

発明の名称 ： 理美容用鋏

技術分野

[0001] 本発明は理容または美容用の鋏に関する。

背景技術

[0002] 一般的に利用されている理容師や美容師（カット技術者）の鋏（従来技術）の構成・作用について、簡単に説明する。動刃と親指リングとを有する第１鋏半体と、静刃部と薬指リングと小指掛部とを有する第２鋏半体とが軸支部にて回動自在に連結されている。髪切断時は、親指を親指リングに挿入し、薬指を薬指リングに挿入し、人差し指と中指とを第２鋏半体の柄部に添え、小指を小指掛部に掛ける。親指腹側を親指リングに押し当てることにより、静刃に対し動刃が回動し、静刃と動刃との間にある髪を切断する。

[0003] このとき、薬指と薬指リングとの接触により、鋏の姿勢を保持することになる。薬指のリング接触部には負荷がかかる。長年に渡って鋏を使用していると、薬指にタコができたり、変形したりする。すなわち、知らず知らずのうちに、カット技術者に負担を与えている。

[0004] ちなみに、一人の髪を切るのに約700回開閉する。時間にして約20分である。1日10人の髪を切ると仮定すると、約7000回の開閉となり、時間では約200分となる。1年のうち、240日稼働すると仮定しとして約168万開閉となり、時間にしては約800時間となる。20年間続けると、3000万開閉超、時間にして約16000時間となる。したがって、ほとんどのカット技術者は、薬指への負荷の影響を受けている。

[0005] また、理容師や美容師の職業病の一つに指や手首の腱鞘炎がある。上記薬指への負荷が、指の腱鞘炎の原因である可能性がある。さらに、上記負荷が指から手首に伝わり、手首の腱鞘炎の遠因となる可能性もある。

[0006] さらに、鋏を閉じるとき、親指リングと薬指リングとが衝突する。この衝突の衝撃が、指や手首の腱鞘炎の原因である可能性がある。

[0007] 特に、最近では斬新なカットテクニックが開発され、手首を過度に曲げる等の不自然な姿勢が要求される。これにより、ますます腱鞘炎の可能性が高まる。

[0008] 腱鞘炎を予防するため、例えば、特許文献１記載の従来技術が提案されている。すなわち、鋏の柄部の少なくとも一部分に中空部を形成するとともに、中空部に、粘弾性体を封入する。粘弾性体の優れた衝撃緩衝力や振動吸収力により、鋏を閉じるときの衝撃の一部を緩和できる。

先行技術文献

特許文献

[0009] 特許文献1：国際公開第２００６／０２２３６８号

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0010] しかしながら特許文献１記載の従来技術では、特に薬指への負荷について軽減することはできない。

[0011] また、鋏を閉じるときの衝撃の一部を緩和できても、その効果は限定的である。したがって、カット技術者の負担軽減に対し、抜本的な対策になっていない。

[0012] 本発明は、上記課題を解決するものであり、薬指への負荷を軽減することにより、カット技術者への負担を軽減できる鋏を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0013] 本願発明者は、薬指への負荷の原因を詳細に検討した。上述の通り、親指を親指リングに挿入し、薬指を薬指リングに挿入し、親指腹側を親指リングに押し当てることにより、静刃に対し動刃が回動し、静刃と動刃との間にある髪を切断する。このとき、薬指と薬指リングとの接触により、鋏（特に静刃）の姿勢を保持することになる。

[0014] ところで、従来技術において、鋏開閉時の親指リングと薬指リングとが為

す軌跡は一定である。カット技術者は、２つのリングの軌跡に合わせるように、指の動きを調整する。その結果、薬指のリング接触部には大きな負荷が発生する。

[0015] 本願発明者らは、上記原因に着目し、対応策を鋭意検討した結果、本発明に至った。

[0016] 上記課題を解決する本発明は、刃部と親指リングとを有する第１鋏半体と、刃部と薬指リングとを有する第２鋏半体とが軸支部にて回動自在に連結される鋏である。

前記第２鋏半体は、連結部を介して第２鋏半体刃側部と第２鋏半体リング側部とが連結されて形成される。第２鋏半体刃側部と第２鋏半体リング側部は、連結軸を中心に回動可能に連結される。

前記連結部には、前記回動を戻す弾性機構が設けられている。

[0017] 第２鋏半体リング側部の回動により、薬指への負荷や鋏が閉じるときの衝撃を軽減できる。また、鋏が閉じるとき、静刃の姿勢を保持しつつ、四指の屈曲を許容する。

[0018] 弾性機構による反力が回動に対抗するように作用することで、意図に反する回動が抑制できる。また、鋏が閉じる時、反力は付勢力として作用する。

[0019] これにより、薬指への負荷を軽減でき、カット技術者への負担を軽減できる。

[0020] 上記発明において、好ましくは、前記弾性機構はねじりバネを有する。

[0021] 上記発明において、好ましくは、前記回動では、前記第２鋏半体刃側部が前記第２鋏半体リング側部に対し、四指の回動方向に回動する。

前記連結部には、所定角度回動すると、回動を拘束する回動拘束機構が設けられている。

[0022] 上記発明において、好ましくは、前記連結部には、回動可能な状態で連結を保持する連結保持機構が設けられている。

[0023] 上記発明において、好ましくは、前記第２鋏半体リング側部の前記薬指リングより鋏先端側には、人指し指または／および中指を掛止する指掛止部が

設けられている。

[0024] 上記発明において、好ましくは、前記第１鋏半体または第２鋏半体の柄部であって、前記連結部より軸支部側にヒットポイントが設けられている。

[0025] 上記課題を解決する本発明は、刃部と親指リングとを有する第１鋏半体と、刃部と薬指リングとを有する第２鋏半体とが軸支部にて回動自在に連結される鋏である。

前記第２鋏半体を一体となすように、第２鋏半体刃側部と第２鋏半体リング側部とを連結する連結部と、

前記連結部の連結軸を中心に、前記第２鋏半体刃側部に対し前記第２鋏半体リング側部を回動する回動機構と、

前記回動に対抗する弾性機構と、

を備える。

発明の効果

[0026] 本発明の鋏によれば、薬指への負荷を軽減できる。その結果、カット技術者への負担を軽減できる。

図面の簡単な説明

[0027] [図1]本実施形態に係る鋏の概略構成

[図2]本実施形態に係る鋏の概略構成

[図3]連結部の詳細構成

[図4]連結部の詳細構成

[図5]連結部の詳細構成

[図6]従来技術の鋏

[図7]従来技術の散髪動作

[図8]本実施形態の散髪動作

[図9]本実施形態の散髪動作

[図10]本実施形態の動作詳細

[図11]変形例

[図12]変形例

発明を実施するための形態

[0028] ＜第１実施形態＞

～構成～

図１および図２は、本実施形態に係る鋏の概略構成を示す。

[0029] 動刃１１は柄部１２を介して親指リング１３と連続し、鋏半体１を構成する。静刃２１は柄部２２を介し薬指リング２３と連続し、鋏半体２を構成する。薬指リング２３には小指掛２４が延設される。鋏半体１と鋏半体２とが軸支部３にて回動自在に連結されている。親指腹側を親指リング１３に押し当てることにより、静刃２１に対し動刃１１が回動し、静刃２１と動刃１１との間にある髪を切断する。以上が、鋏の基本構成である。

[0030] 本実施形態では、柄部２２において連結部２５が設けられている。すなわち、鋏半体２は、連結部２５を介して鋏半体刃側部２６と鋏半体リング側部２７とが連結されて形成される。柄部２２の中心軸が連結軸となる。

[0031] 図３～図５は、連結部２５の詳細構成を示す。連結部２５は、回動機構５１と弾性機構５２と、回動拘束機構５３と、連結保持機構５４とを有する。

[0032] 鋏半体リング側部２７は鋏半体刃側部２６に対し連結軸を中心に回動可能である。

[0033] 鋏半体刃側部２６の端部には、柄部２２より一回り小径の軸部６１が延設されている。軸部６１の根元には、軸部６１を囲むように溝が設けられ、ねじりバネ挿入部６２を形成する。

[0034] 軸部６１の端面には、扇型状部材がもうけられ、回動拘束部６３を形成する。軸部６１の周面には、周方向に溝が設けられ、連結保持溝６４を形成する。

[0035] 鋏半体リング側部２７の端部には、軸部６１に対応する穴が設けられ、軸受部７１を形成する。軸受部７１の入口では、軸穴より一回り拡径され、ねじりバネ挿入部７２を形成する。

[0036] 軸受部７１の奥行きには、回動可能範囲部７３が設けられている。鋏半体リング側部２７には、表面から軸受部７１に連通するネジ孔７４が設けられ

ている。

[0037] 回動機構５１について説明する。軸部６１が軸受部７１に挿入されて、回動機構５１が形成される。つまり、鋏半体リング側部２７は鋏半体刃側部２６に対し連結軸を中心に回動可能となる。

[0038] 弾性機構５２について説明する。ねじりバネ挿入部６２とねじりバネ挿入部７２は対向する位置にあり、空間を形成する。軸部６１まわりとねじりバネ挿入部６２，７２の間にねじりバネ８２が介挿され、弾性機構５２が形成される。

[0039] 弾性機構５２は、回動機構５１による回動に対し、回動を戻すように作用する(詳細後述)。

[0040] 回動拘束機構５３について説明する。軸部６１が軸受部７１に挿入された状態で、回動拘束部６３と回動可能範囲部７３とが対応する。回動拘束部６３である扇型部材は第１係止面と第２係止面を持つ。一方、回動可能範囲部７３は、回動拘束部６３の扇角より角度の大きい、扇状空間であり、第１係止面と第２係止面を持つ。

[0041] 回動拘束部６３第１係止面と回動可能範囲部７３第１係止面とが係合することにより、回動機構５１による回動は、指の回動方向への回動であり、逆方向の回動が拘束される。

[0042] 回動拘束部６３第２係止面と回動可能範囲部７３第２係止面とが係合することにより、回動機構５１による回動は、所定角度（４５～９０度未満、たとえば７０度）に拘束される。

[0043] 連結保持機構５４について説明する。軸部６１が軸受部７１に挿入された状態で、連結保持溝６４とネジ孔７４とが対応する。ネジ孔７４に連結保持ネジ８４に螺合させると、連結保持ネジ８４の先端が連結保持溝６４に位置する。連結保持ネジ８４先端が連結保持溝６４に係合し、軸方向の移動が拘束され、連結状態は保持される。

[0044] 一方、回動機構５１による回動に伴い、連結保持ネジ８４先端は連結保持溝６４に沿って移動する。そのため、連結保持機構５４が回動を阻害するこ

とはない。

[0045] 図１および図２に戻り、その他の構成について説明する。

[0046] 鋏半体リング側部２７の柄部２２には、指掛止部４１，４２が設けられている。指掛止部４１はクォーターリング４１であり、指掛止部４２はワンエイスリング（= one eighth =1/8）４２である。

[0047] クォーターリング４１は、軸支部３と薬指リング２３との間から鋏先端側に向かって延設され、人差し指背部と当接する。クォーターリング４１は、楕円状の薬指リング２３の１／４弧状をしている。これにより、クォーターリング４１鋏先端側が開放されている。

[0048] ワンエイスリング４２は、薬指リング２３に鋏先端側に向かって延設され、中指背部と当接する。ワンエイスリング４２は、楕円状の薬指リング２３の１／８弧状に近似する形状をしている。これにより、ワンエイスリング４２鋏先端側が開放されている。

[0049] 鋏半体刃側部２６の柄部２２であって、連結部２５と軸支部３の間にはヒットポイント２９が設けられている。

[0050] ～動作および効果～

基本的な散髪動作について従来技術と本実施形態とを比較することにより、本実施形態の効果について説明する。

[0051] 図６は従来技術の鋏の概略図であり、図７は従来技術の散髪動作について説明する図である。

[0052] 親指を親指リングに挿入し、薬指を薬指リングに挿入し、人差し指と中指とを第２鋏半体の柄部に添え、小指を小指掛部に掛ける。

[0053] 親指を開く方向に動かすことにより、静刃に対し動刃が回動し、鋏が開く。さらに、親指腹側を親指リングに押し当てることにより、静刃に対し動刃が反対方向回動し、鋏が閉じる。その際、静刃と動刃との間にある髪を切断する。この開閉が繰り返される。

[0054] このとき、薬指と薬指リングとの接触により、静刃の姿勢を保持することになる。四指（人差し指、中指、薬指、小指）は伸びた状態になる。この姿

勢を維持することは、人間本来の動きに反し、指以外の筋肉も緊張する。

[0055] また、２つのリングの軌跡に指の動きをあわせる。薬指は薬指リングに拘束され、薬指のリング接触部には大きな負荷が発生する。

[0056] さらに、鋏が閉じるとき、親指リングと薬指リングとが衝突し、衝撃が発生する。

[0057] 以上の動作が、カット技術者に負担を与え、腱鞘炎の原因となる可能性がある。

[0058] 図８および図９は、本実施形態の散髪動作について説明する図である。図１０は、本実施形態の動作詳細について説明する図である。

[0059] 親指を親指リング１３に挿入し、人差し指背部をクォーターリング４１に当接し、中指をワンエイスリング４２に当接し、薬指を薬指リング２３に挿入し、小指を小指掛２４に掛ける。

[0060] 基本的な散髪動作は従来技術と共通するが、以下の点で相違する。

[0061] 鋏が閉じるとき、薬指のリング接触部には負荷が発生する。負荷はねじりバネ８２に対抗し、鋏半体リング側部２７を回動させる。鋏半体リング側部２７の回動に伴い四指（人差し指、中指、薬指、小指）の回動（屈曲状態）を許容する。四指の屈曲は人間本来の動きであり、指以外の筋肉への影響は少ない。

[0062] 一方、ねじりバネ８２の対抗力が作用することにより、カット技術者の意図に反する回動が抑制される。これにより、カット技術者は鋏が指に吸い付く一体感を得る。

[0063] 鋏半体リング側部２７が回動しても、鋏半体刃側部２６すなわち静刃２１の姿勢は保持される。

[0064] 従来技術では２つのリングの軌跡に指の動きをあわせるのに対し、本実施形態では、上記回動が指の動きにあわせる。上記回動により、薬指は薬指リングに拘束されず、薬指への負荷は大幅に軽減される。

[0065] さらに、鋏が閉じるとき、柄部１２はヒットポイント２９に衝突するが、上記回動により、衝撃は吸収される。

[0066] 鋏が開くとき、ねじりバネ８２の対抗力は、付勢力として作用する。親指を開く方向に動かす力を軽減できる。

[0067] 以上の動作により、薬指への負荷を軽減でき、カット技術者への負担を軽減できる。その結果、指や手首の腱鞘炎を予防できる。

[0068] ～その他の効果～

最近では斬新なカットテクニックが開発され、手首を過度に曲げる等の不自然な姿勢が要求される。本実施形態では、四指の回動により、手首の曲げを緩和できる。すなわち、様々なカットテクニックにも対応できる。

[0069] 回動機構５１および弾性機構５２以外の効果について説明する。

[0070] 本実施形態は、回動拘束機構５３を備える。これにより、逆方向の回動および過剰な回動を抑制できる。

[0071] 本実施形態は、連結保持機構５４を備える。これにより、上記回動を可能にするとともに、鋏半体２としての一体性を保持できる。

[0072] 本実施形態は、クォーターリング４１およびワンエイスリング４２を備える。これにより、回動時に発生するねじりモーメントを抑制でき、回動の反力は四指に分散される。その結果、カット技術者への負担を軽減できる。

[0073] 本実施形態は、ヒットポイント２９を備える。本実施形態では、上記のように回動が衝撃を吸収するため、親指リングと薬指リングの間にヒットポイントを設ける必要がない。また、ヒットポイント２９が鋏半体刃側部２６に設けられているため、鋏半体リング側部２７の回動を阻害しない。したがって、カット技術者には違和感が発生しない。

[0074] ～変形例～

本願発明は上記実施形態に限定されず、発明の技術思想の範囲で種々の変形が可能である。

[0075] 図１１は、本発明の変形例である。従来技術の鋏（図６参照）に、連結部２５、回動機構５１および弾性機構５２を付加したものである。

[0076] これにより上記実施形態と同様に、薬指への負荷を軽減でき、カット技術者への負担を軽減できる。その結果、指や手首の腱鞘炎を予防できる。

[0077] 他の変形例について説明する。

[0078] 上記実施形態においては、回動機構５１として軸部６１と軸受部７１を用いたが、他の構成でもよい。例えば、鋏半体刃側部２６に軸受け部を、鋏半体リング側部２７に軸部を設けてよい（図１２参照）。

[0079] 上記実施形態においては、弾性機構５２としてねじりバネ８２を用いたが、他の構成でもよい。例えば、ゼンマイバネ、板バネ、流体バネ、樹脂等の弾性体を用いてもよい。

[0080] 上記実施形態においては、回動拘束機構５３として回動拘束部６３と回動可能範囲部７３との係止構造を用いたが、他の構成でもよい。例えば、鋏半体刃側部２６に軸受け部を、鋏半体リング側部２７に軸部を設けて、軸部の基部に回動拘束部を設け、軸受け部に回動可能範囲部を設けても良い（図１２参照）。

[0081] 上記実施形態においては、連結保持機構５４として、連結保持溝６４，ネジ孔７４，連結保持ネジ８４を用いたが、回動を確保しながら連結を保持できれば、他の構成でもよい。

[0082] 上記実施形態においては、指掛止部としてクォーターリング４１およびワンエイスリング４２を用いたが、いずれか一方でもよい。

[0083] 上記実施形態においては、ヒットポイント２９は鋏半体刃側部２６の柄部２２に設けられたが、柄部１２の対応する位置でもよい。

符号の説明

[0084] １ 鋏半体（第１）

２ 鋏半体（第２）

３ 軸支部

１１ 動刃

１２ 柄部

１３ 親指リング

２１ 静刃

２２ 柄部

２３　薬指リング

２４　小指掛部

２５　連結部

２６　第２鋏半体刃側部

２７　第２鋏半体リング側部

２９　ヒットポイント

４１　クォーターリング（人差し指掛止部）

４２　ワンエイスリング（中指掛止部）

５１　回動機構

５２　弾性機構

５３　回動拘束機構

５４　連結保持機構

６１　軸部

６２　ねじりバネ挿入部

６３　回動拘束部

６４　連結保持溝

７１　軸受部

７２　ねじりバネ挿入部

７３　回動可能範囲部

７４　ネジ孔

８２　ねじりバネ

８４　連結保持ネジ

請求の範囲

[請求項1] 刃部と親指リングとを有する第１鋏半体と、刃部と薬指リングとを有する第２鋏半体とが軸支部にて回動自在に連結される鋏であって、

前記第２鋏半体は、連結部を介して第２鋏半体刃側部と第２鋏半体リング側部とが連結軸を中心に回動可能に連結されて形成され、

前記連結部には、前記回動を戻す弾性機構が設けられている

ことを特徴とする理美容用鋏。

[請求項2] 前記弾性機構はねじりバネを有する

ことを特徴とする請求項１記載の理美容用鋏。

[請求項3] 前記回動では、前記第２鋏半体刃側部が前記第２鋏半体リング側部に対し、四指の回動方向に回動し、

前記連結部には、所定角度回動すると、回動を拘束する回動拘束機構が設けられている

ことを特徴とする請求項１または請求項２記載の理美容用鋏。

[請求項4] 前記連結部には、回動可能な状態で連結を保持する連結保持機構が設けられている

ことを特徴とする請求項１～３いずれか記載の理美容用鋏。

[請求項5] 前記第２鋏半体リング側部の前記薬指リングより鋏先端側には、人指し指または／および中指を掛止する指掛止部が設けられている

ことを特徴とする請求項１～４いずれか記載の理美容用鋏。

[請求項6] 前記第１鋏半体または第２鋏半体の柄部であって、前記連結部より軸支部側にヒットポイントが設けられている

ことを特徴とする請求項１～５いずれか記載の理美容用鋏。

[請求項7] 刃部と親指リングとを有する第１鋏半体と、刃部と薬指リングとを有する第２鋏半体とが軸支部にて回動自在に連結される鋏であって、

前記第２鋏半体を一体となすように、第２鋏半体刃側部と第２鋏半体リング側部とを連結する連結部と、

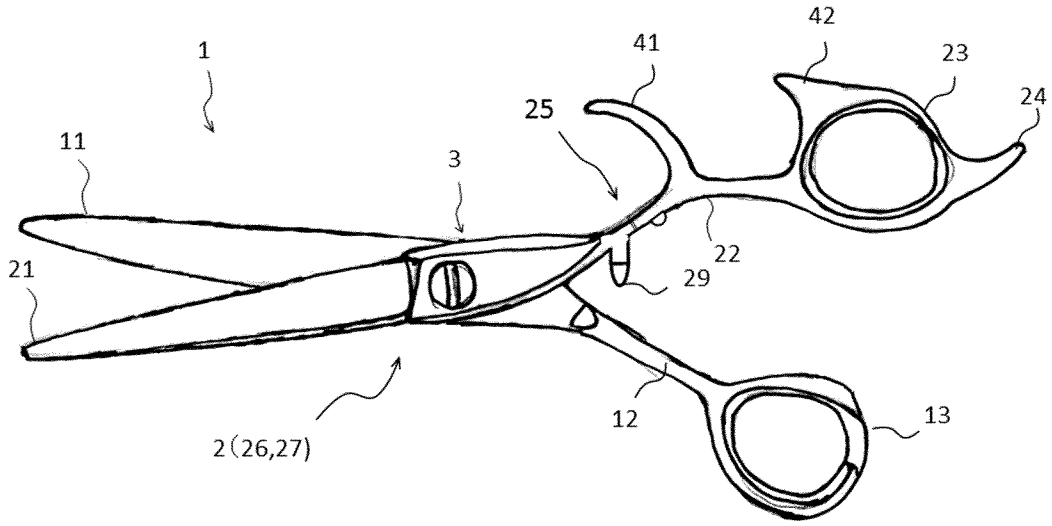
前記連結部の連結軸を中心に、前記第２鋏半体刃側部に対し前記第

２鋏半体リング側部を回動する回動機構と、

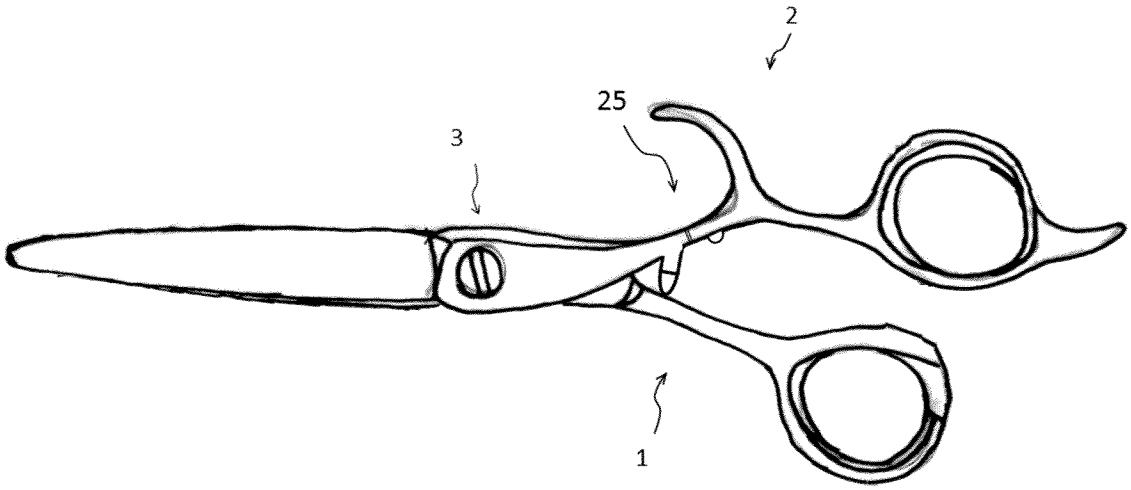
前記回動に対抗する弾性機構と、

を備えることを特徴とする理美容用鋏。

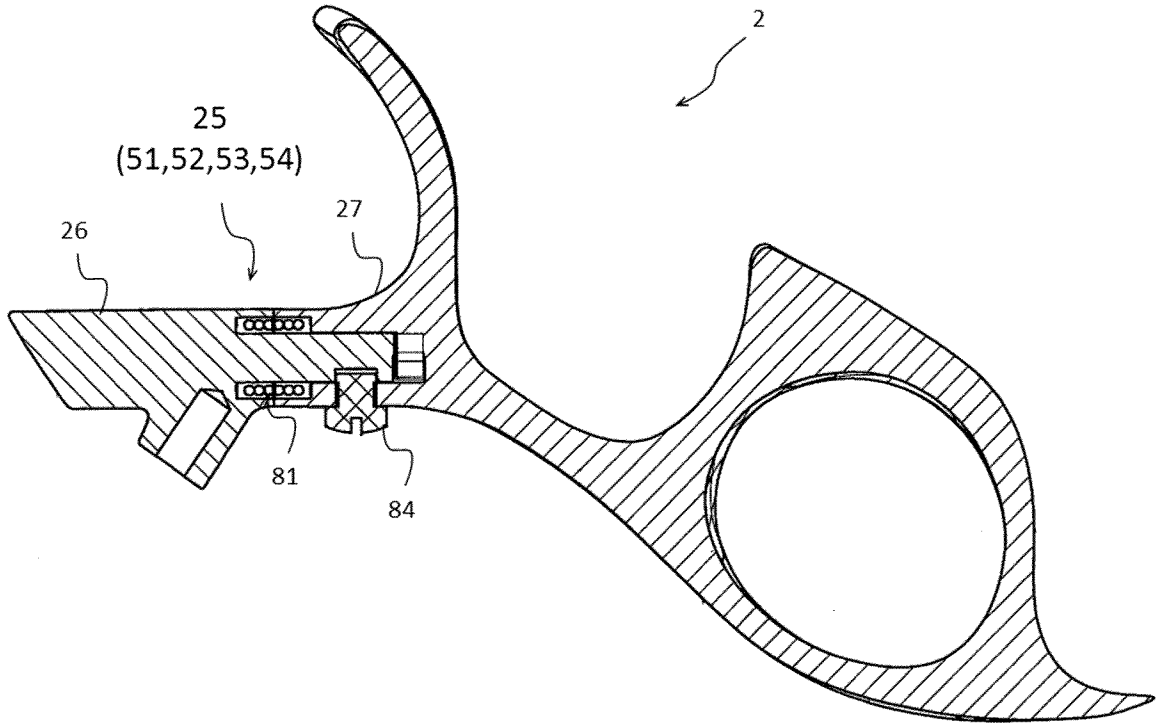
[図1]



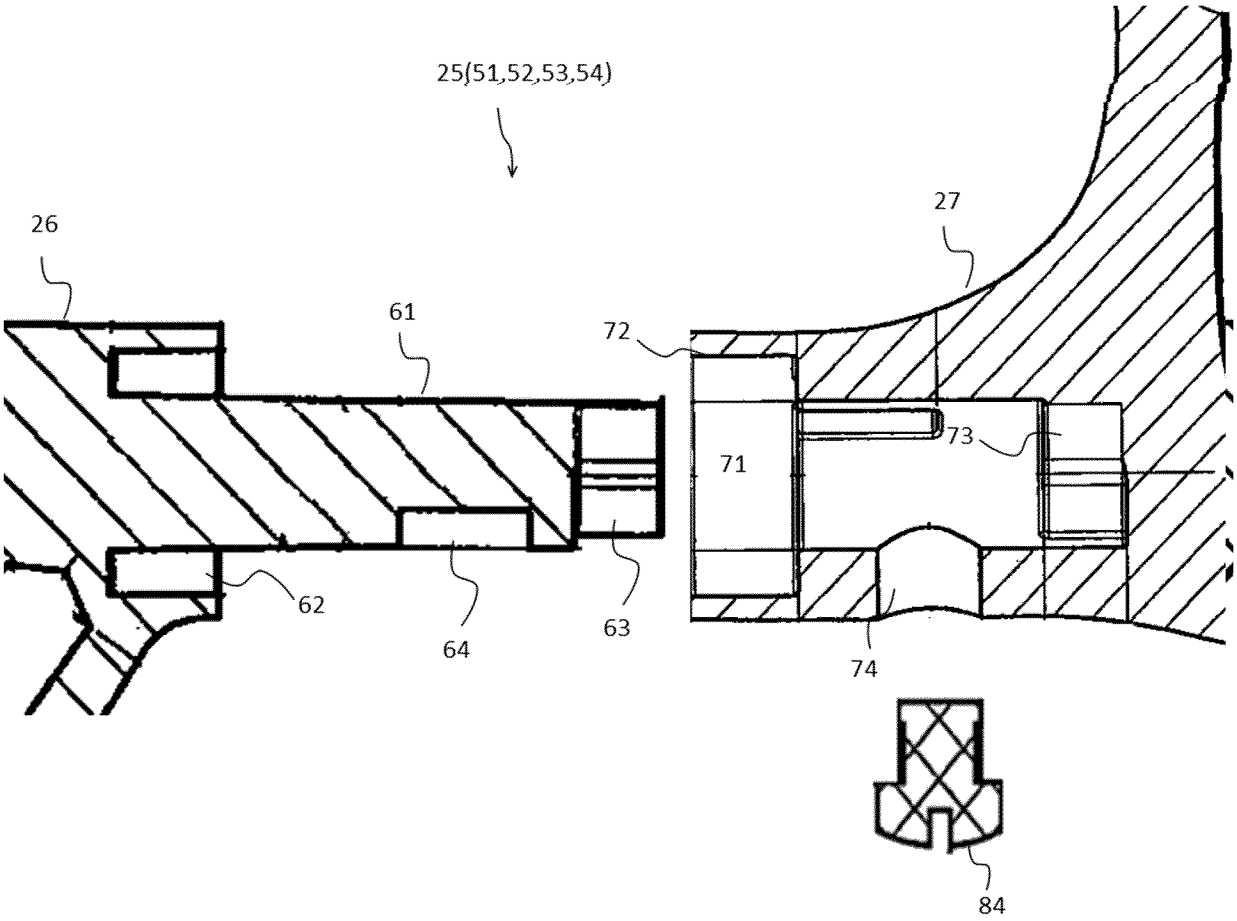
[図2]



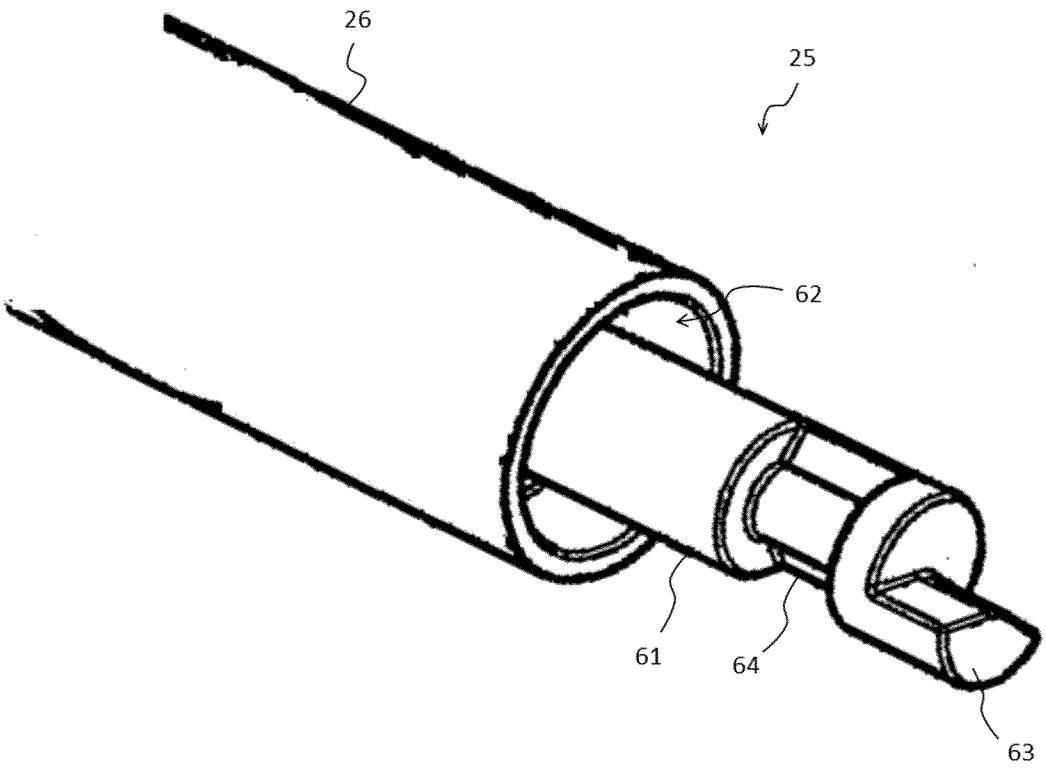
[図3]


2
25
(51,52,53,54)
26
27
81
84

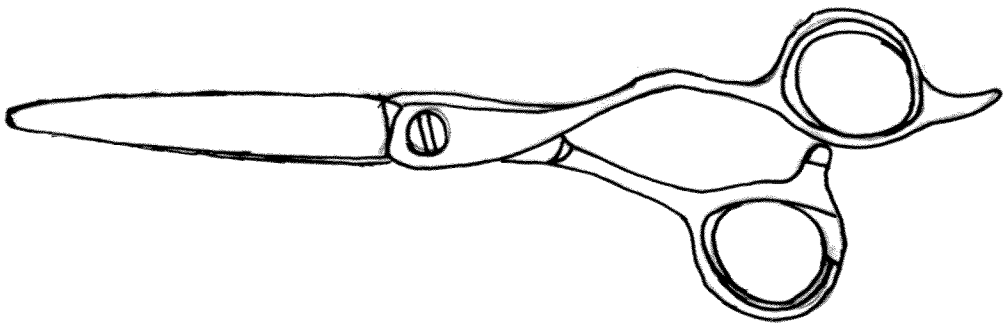
[図4]


25(51,52,53,54)
26
27
61
72
71
73
62
64
63
74
84

[図5]

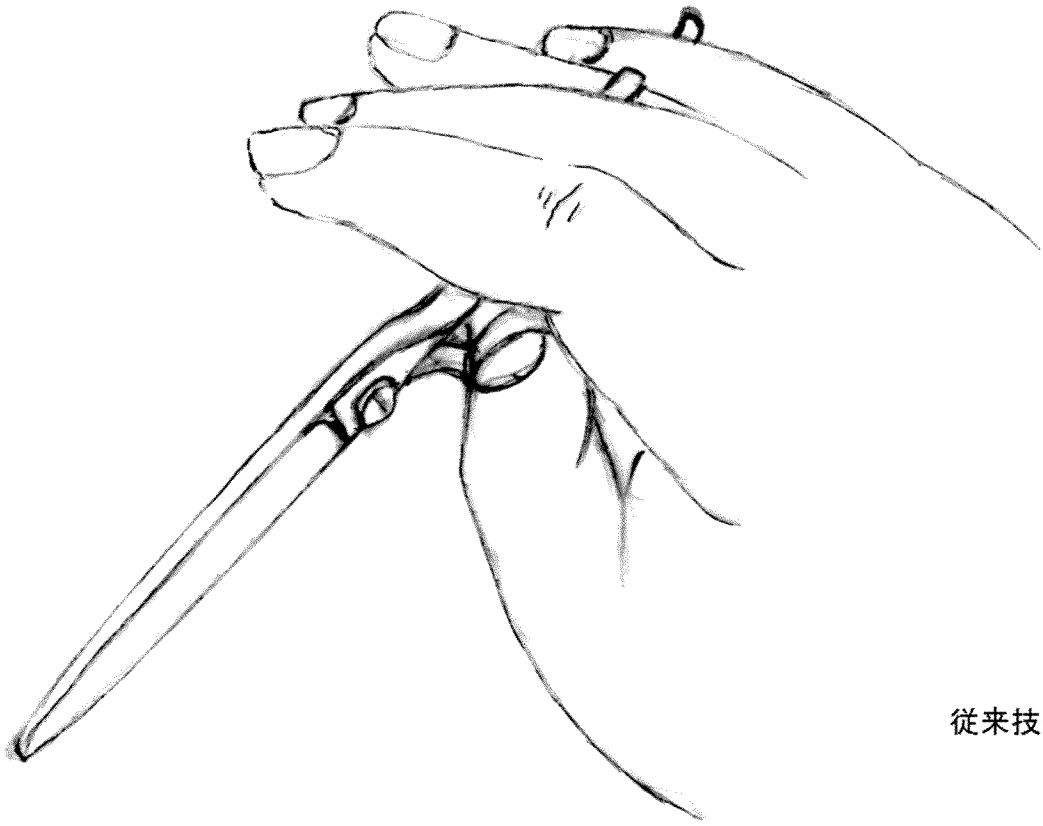


[図6]



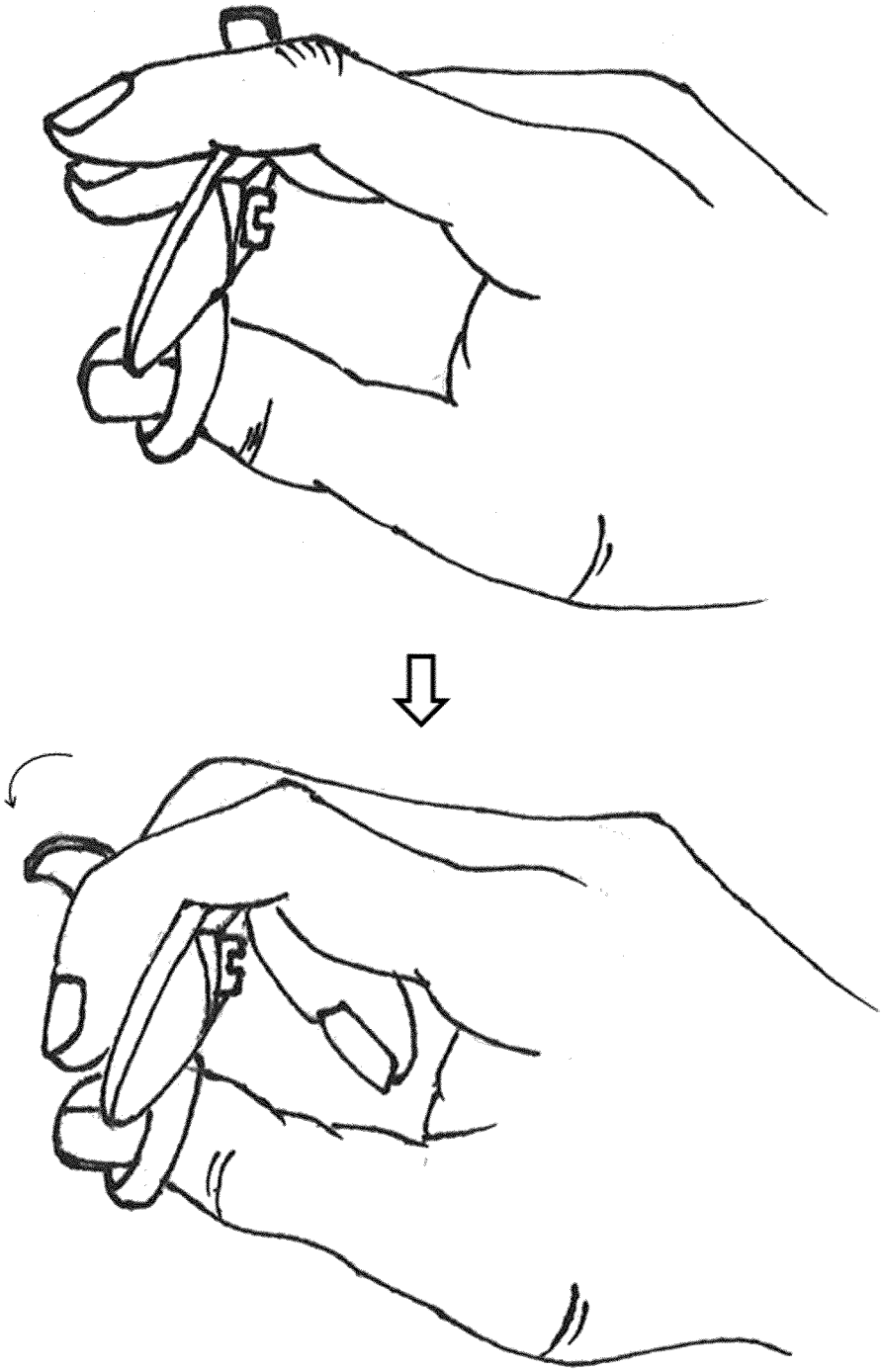
従来技術

[図7]

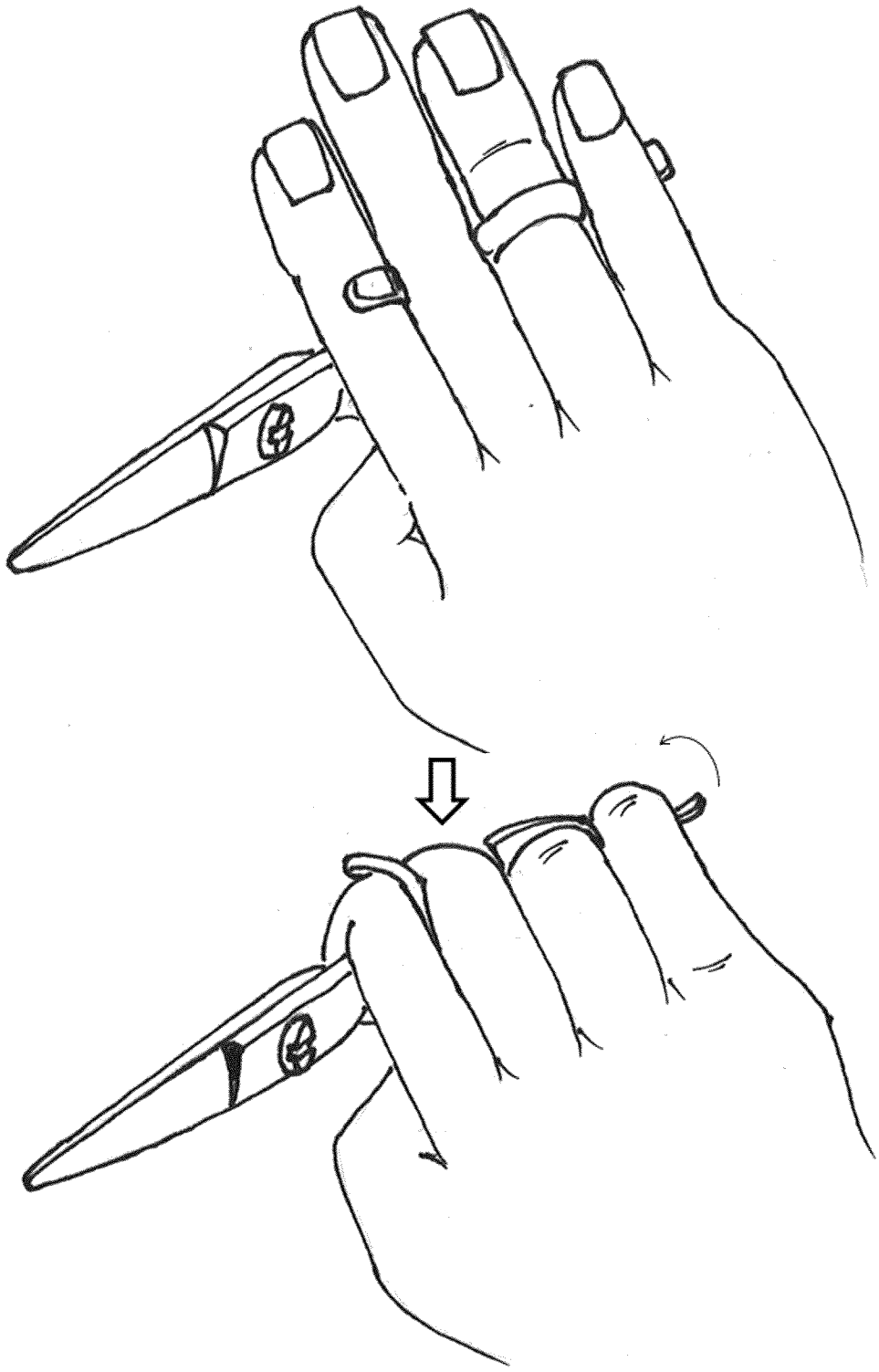


従来技術

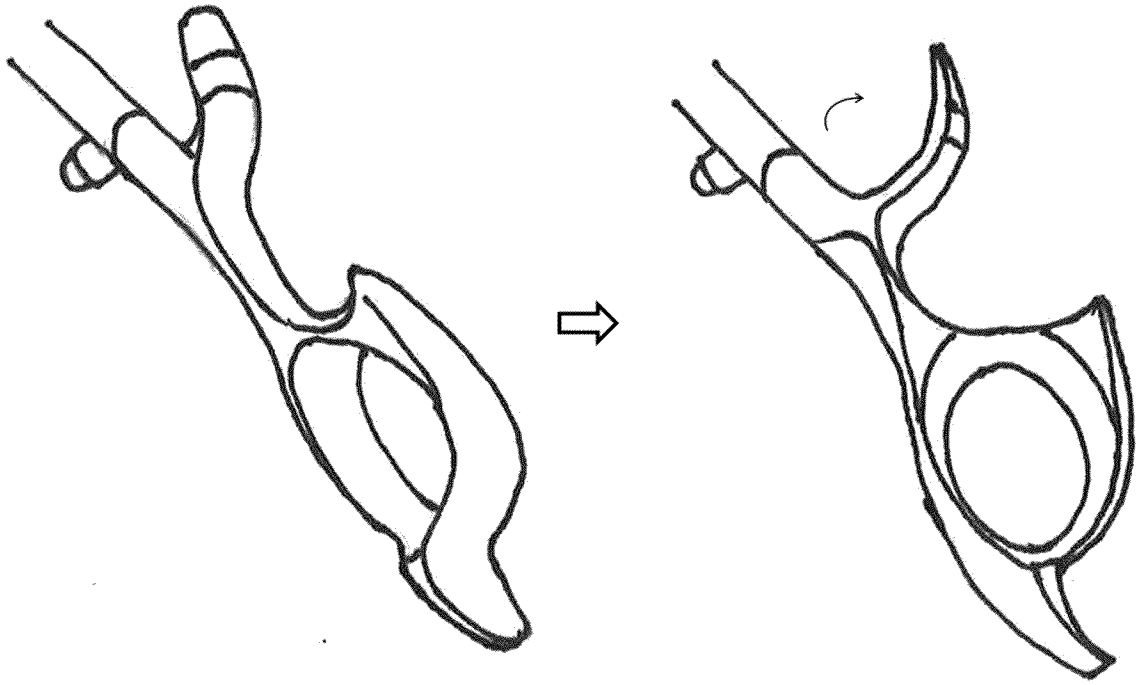
[図8]



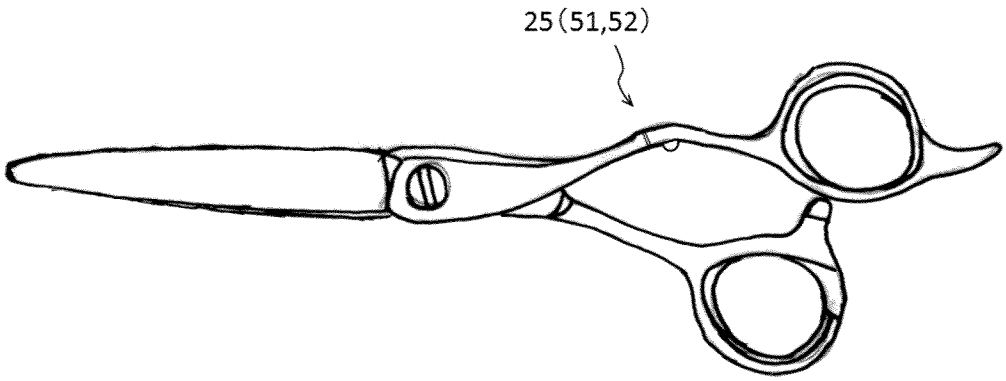
[図9]



[図10]

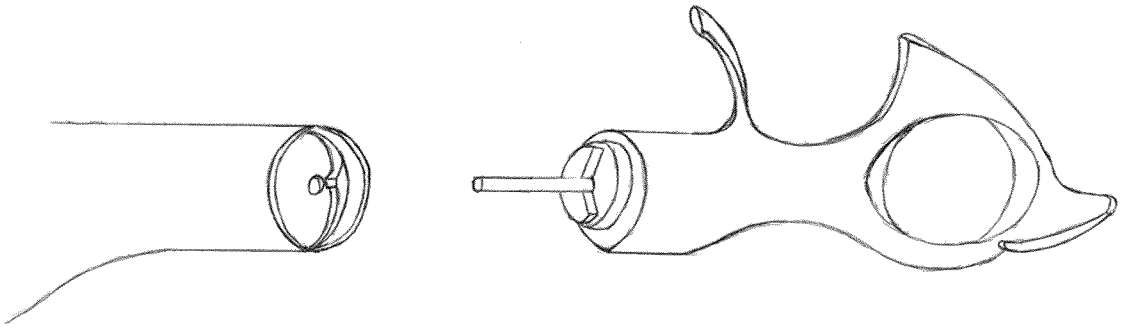


[図11]



変形例

[図12]



変形例

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2015/061026

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
B26B13/00(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
B26B13/00

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2015
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2015	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2015

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	WO 97/46353 A1 (TABERLET, JEAN-JACQUES), 11 December 1997 (11.12.1997), description, page 2, line 34 to page 3, line 11; page 3, line 27 to page 4, line 1; page 4, lines 20 to 24; page 5, line 22 to page 6, line 3; page 6, line 35 to page 8, line 15; fig. 1, 5 to 6 (Family: none)	1-7
Y	JP 2014-200570 A (Hikari Co., Ltd.), 27 October 2014 (27.10.2014), paragraphs [0050], [0055]; fig. 8, 12 (Family: none)	1-7

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
25 June 2015 (25.06.15)	07 July 2015 (07.07.15)

Name and mailing address of the ISA/	Authorized officer
Japan Patent Office 3-4-3,Kasumigaseki,Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915,Japan	Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2015/061026

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	CD-ROM of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 65223/1992(Laid-open No. 26769/1994) (Tokosha Co., Ltd.), 12 April 1994 (12.04.1994), paragraph [0005]; fig. 1 to 3 (Family: none)	1-7
Y	US 2013/0081282 A1 (SOUCIE DENNIS E. and WHITE GARY A.), 04 April 2013 (04.04.2013), paragraph [0087]; fig. 3 (Family: none)	1-7
Y	JP 50-143180 A (Jaguar Stahlwaren Vertriebsgesellschaft mbH & Co. KG), 18 November 1975 (18.11.1975), page 3, upper left column, line 10; fig. 1 (Family: none)	6
A	FR 2627421 A1 (TABERLET JEAN JACQUES), 25 August 1989 (25.08.1989), fig. 1, 2 (Family: none)	1
A	US 2012/0079724 A1 (TAI-WEI SCISSORS CO., LTD.), 05 April 2012 (05.04.2012), paragraphs [0023] to [0024]; fig. 1, 4 (Family: none)	1
A	US 2008/0172886 A1 (JUN DONG HO), 24 July 2008 (24.07.2008), paragraphs [0033] to [0038]; fig. 6 to 7 (Family: none)	1
A	JP 2004-113539 A (Adachi Industry Co., Ltd.), 15 April 2004 (15.04.2004), paragraph [0017]; fig. 3, 9 & TW 255129 U	1

国際調査報告

国際出願番号　ＰＣＴ／ＪＰ２０１５／０６１０２６

Ａ．　発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　B26B13/00(2006.01)i

Ｂ．　調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　B26B13/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報	１９７１－２０１５年
日本国実用新案登録公報	１９９６－２０１５年
日本国登録実用新案公報	１９９４－２０１５年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

Ｃ．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
Y	WO 97/46353 A1 (TABERLET, JEAN-JACQUES) 1997.12.11, 明細書第2頁第34行-第3頁第11行，第3頁第27行-第4頁第1行，第4頁第20行-第24行，第5頁第22行-第6頁第3行，第6頁第35行-第8頁第15行，図1，図5-6（ファミリーなし）	1-7
Y	JP 2014-200570 A（株式会社ヒカリ）2014.10.27, 段落0050，0055，図8，図12（ファミリーなし）	1-7

☑　Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。

☐　パテントファミリーに関する別紙を参照。

＊　引用文献のカテゴリー

「Ａ」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「Ｅ」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「Ｌ」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）

「Ｏ」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「Ｐ」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献

「Ｔ」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「Ｘ」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Ｙ」特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「＆」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日	国際調査報告の発送日
２５．０６．２０１５	０７．０７．２０１５

国際調査機関の名称及びあて先
日本国特許庁（ＩＳＡ／ＪＰ）
郵便番号１００－８９１５
東京都千代田区霞が関三丁目４番３号

特許庁審査官（権限のある職員）　３Ｃ　５５６４
山本　忠博
電話番号　０３－３５８１－１１０１　内線　３３２４

Ｃ（続き）．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
Y	日本国実用新案登録出願 4-65223 号(日本国実用新案登録出願公開 6-26769 号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を記録した CD-ROM（株式会社東光舎）1994.04.12，段落 0005，図 1-3 (ファミリーなし)	1-7
Y	US 2013/0081282 A1 (SOUCIE DENNIS E. and WHITE GARY A.) 2013.04.04，段落 0087，図 3（ファミリーなし）	1-7
Y	JP 50-143180 A（ヤーグアール・シユタールウアーレン・フエルトリープスゲゼルシヤフト・ミト・ベシユレンクテル・ハフツング・ウント・コンパニー・コマンデイトゲゼルシヤフト）1975.11.18，第 3 頁左上欄第 10 行，図 1（ファミリーなし）	6
A	FR 2627421 A1 (TABERLET JEAN JACQUES) 1989.08.25，図 1，図 2 (ファミリーなし)	1
A	US 2012/0079724 A1 (TAI-WEI SCISSORS CO., LTD) 2012.04.05，段落 0023-0024，図 1，図 4（ファミリーなし）	1
A	US 2008/0172886 A1 (JUN DONG HO) 2008.07.24，段落 0033-0038，図 6-7（ファミリーなし）	1
A	JP 2004-113539 A（足立工業株式会社）2004.04.15，段落 0017，図 3，図 9 & TW 255129 U	1